

評価結果概要表

作成日 平成 21 年 6 月 30 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0591100060号
法人名	有限会社 バスケの街能代企画
事業所名	グループホームあにの里
所在地	北秋田市阿仁銀山字上新町80番地7 (電話) 0186-82-3800

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成21年5月27日

【情報提供票より】 (平成21年5月9日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 21 年 1 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 (常勤 6 人 非常勤 2 人 常勤換算 6.4 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造準耐火 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有 ( 円) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護 1	2 名	要介護 2	2 名
要介護 3	4 名	要介護 4	1 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 84.5 歳	最低 74 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北秋田市立阿仁病院
---------	-----------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

利用者の人権を尊重し、利用者の立場に立った個別的なサービス提供を心がけ、お互いに尊重し支え合う関係づくりに努めている。  
 そのため、利用者と家族のような接し方をすることで親近感を持たせており、利用者と職員が一体となった家庭的な雰囲気が随所にみられ、利用者の表情も豊かになっている。  
 また、農園づくりや保育園との交流など前回調査時よりも事業所の活動が充実し、利用者の自発的な行動にもつながっており、事業所の理解とともに地域に根付いてきていることがうかがえる。  
 さらには、事業所独自のアセスメント様式(バックグラウンドアセスメント)を工夫し、利用者の個人史を把握してケアに反映させ、「あにの里だより」の発行などにより利用者及び家族の満足度も向上している。  
 管理者は、事業所の運営及びサービスの向上に意欲的であることから、他事業所との交流や研修などを通じて情報収集に努め、より効果的なサービス提供につなげてほしい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	広報誌「あにの里だより」の発行や利用者による農園活動の充実、事業所独自のアセスメント様式の工夫など、前回調査時から運営面やケアに関する様々な取り組みにつなげている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が職員の意見を参考にして自己評価を行っており、職員の自己点検の機会としているが、今後は職員一人ひとりが自己評価に取り組むなど、事業所全体で評価しながらサービスの向上につなげてほしい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では積極的に課題を提起し、保育園との交流や近隣住民の協力を得た防火体制の整備、利用者の無断外出時の見守り体制など、地域との協力体制を生かした取り組みにつなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「あにの里だより」の発行が好評で、親族分を分けてほしいとの要望に応えたり、希望に応じて居室にナースコールを設置するなど、面会時や電話、手紙などで把握した利用者及び家族からの声に柔軟に対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地域の清掃活動や祭りへの参加、近隣保育園や中学校との交流など、前回調査時から地域との関りが深まってきている。 なお、近隣の方が草取りや大工仕事を手伝うなど、事業所の理解も深まっていることから、今後は事業所を開放した気軽に訪問してもらえる関係づくりを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>								
<b>1. 理念と共有</b>								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を作り上げそれに基づき取り組んでいる。	○	地元の商店街を利用し、馴染みの関係の中で地域の方と利用者とは関わっている。	利用者の人権を尊重し、利用者の立場に立った個別的なサービス提供を法人の運営方針として掲げ、利用者や職員との「家庭的」な信頼関係の構築に努めている。	○	近隣住民や地元商店街との関わりを大切にしながら、地域に根ざした事業所づくりを心がけていることから、その考えに基づき地域密着型事業所として、改めて事業所独自の理念を構築することを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者さん1人1人の能力を大切に家庭的な環境の下で可能な限り自立した生活を送れる様、取り組んでいる。	○	バックグラウンドアセスメントや本人の意向を伺い、興味・関心のある事には全職員で一緒に取り組むようにしている。	運営方針を事務所に掲示しており、職員もその内容を理解して日常のケアに生かしている。	○	事業所独自の理念や運営方針に基づいたケアの目標を分かりやすく掲げ、日々の取り組みに対する職員間の意識付けと共有に努めてほしい。
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	自治会の作業に入居者さん、職員で参加している。	○	畑での野菜作りや花の栽培で近隣の方との交流をしている。			
<b>2. 地域との支えあい</b>								
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃から近隣の方々との、関りを大切に、日常的な付き合いをしている。	○	保育園の子供達の訪問や、農園作業や収穫際での交流等、1年を通して様々な付き合いを楽しまれている。			
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭典や自治活動に積極的に参加して交流に努めている。	○	身体状況を考慮しながら、今後も地域の方々との交流を深めていきたい。	自治会に加入し、地域の清掃活動や「万灯火」行事に参加したり、近隣保育園のお遊戯会や中学校の運動会に見学で訪れるなど、前回調査時よりも地域との交流が図られている。 また、地域の方々が事業所の草取りや大工仕事を好意で行うなど、地域の理解も深まってきている。	○	地域の方々が気軽に事業所を訪れてくれることを望んでいるため、運営推進会議等で議題にしながら、相互に交流できる機会と関係づくりに努めてほしい。
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	保育所との交流を農園作業や散歩時の立寄り、遊戯会の開催等行っている。	○	地域のゲートボール大会、レクリエーション等の参加・見学を継続して行きたい。			
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善点について話し合い、出来る事から1つ1つ改善へ向け取り組んでいる。	○	改善事項は真摯に受け止め、緊急性を考慮し出来る事から改善に向けた取り組みをしている。	管理者が職員の意見を確認しながら自己評価を行い、職員の自己点検にも活用している。 また、前回評価後に法人代表を含めて職員会議を行い、広報誌作成など具体的な取り組みにつなげている。	○	今後は、職員一人ひとりが自ら自己評価に取り組み、それを事業所として一つにまとめるなど、組織全体で取り組むことを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では参加された委員の方々から積極的に意見を出して頂き、サービスへ繋げている。	○	今後も運営推進会議での第三者からの意見を大切にしていきたいサービス向上へ繋げていきたい。	運営推進会議を有効的に活用し、保育園との交流や近隣住民の協力を得た防火体制の整備など、地域と一体となった利用者支援体制づくりに向けて検討し、実際の取り組みにつなげている。 また、地元社会福祉協議会の理事が参画するなど、社協と連携している。	○	事業所の機能を開放した地域との交流や、外部評価結果からの課題等の改善に向け、地域住民や関係機関との協力体制を最大限に生かした取り組みをめざし、今後も活発な意見交換の場として活用してほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	随時、相談や疑問について受けていただいている。	○	今後も市町村担当者との関りを密にしてサービスの質の向上に繋げていきたい。	生活保護の利用者受入などに関して、ケースワーカーや地域包括支援センターと連携しているほか、地元社会福祉協議会とは気軽に相談できる関係があり、空き情報など連携しながらケアに生かしている。	○	管理者は行政との連携や関わりに対して意欲的であることから、地域とのつながりを更に深めていくため、行政主導で福祉関係者による情報交換会や交流の機会を設けてもらうなど、積極的に働きかけていくことを期待したい。
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	グループホーム1ユニットの小事業ゆえ実施できないでいる。	○	将来的には勉強して行きたいと思っています。			
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止や高齢者虐待について職員で学ぶ機会を定期的に設けている。	○	畑での野菜作りや花の栽培で近隣の方との交流をしている。			
<b>4. 理念を実践するための体制</b>								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に利用者さん・家族の方と面談する機会を設け、不安や疑問を解決した上で後日、契約している。	○	解約時における利用者さんの不安や疑問を軽減出来る様な説明を行っていききたい。			
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話の中で意見等出してくださっている。また意見伺い箱を設置している。	○	利用者さんの状態に応じ、運営推進会議への参加等、促していききたい。			
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者さんの状態について定期的に個々にあった報告の仕方をしている。	○	状態に応じた報告をすると共に、2ヶ月に1度、出納帳と利用者さんの様子を文書で報告している。また、年4回ホーム便りを発行しホームの様子を伝えている。	前回調査時から「あにの里だより」を3か月に1回発行し、利用者の日常や行事時の様子を伝えている。また、2か月毎に金銭出納状況と併せて利用者の状況を個別に報告し、面会時や電話、手紙などでも情報提供に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見伺い箱の設置と、面会時や電話での意見・不満・苦情を受け改善へ向けて対応している。	○	2ヶ月に1度担当職員から家族さんへ、利用者さんの状態を報告する手紙を送付している。家族さんからの返事の欄も設けており、意見等記入し返信されており運営に反映されている。	玄関に意見箱を設置し、苦情対応マニュアルを整備しているが、これまでに苦情がないため、利用者の様子を記した手紙に返信欄を設け、意見や要望の把握に努めている。また、面会時や電話、運営推進会議などで家族の意見をうかがい、事業所の運営に関しても提案を求めている。		
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議後に結果を報告しながら意見交換している。	○	もう少し具体的な内容について意見交換してみたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な時間に柔軟に対応出来るような職員配置を取っている。	○	ゆとりを持った人員配置となっており、必要時には柔軟に対応する事が可能となっている。			
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最低限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動や離職は必要最低限としている。	○	退職者とお別れ会を設け、利用者さんと一緒に過ごすようにしている。	居室担当制を導入し、利用者及び家族との信頼関係の構築を大切にしており、日常的な支援については担当職員だけでなく、全職員で対応するよう心がけている。 なお、職員の退職時にはお別れ会を開催し、利用者が納得できるよう心理的負担の軽減にも努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の経験や能力より、職員に適した講習会や勉強会に参加させるようにしている。	○	あまり講習会への参加を希望しない職員を参加意欲を持つよう指導したい。	事業所として研修会への参加を奨励し、職員の希望に応じて派遣している。 また、研修内容の共有化に努めており、内部研修として感染症や身体拘束などのテーマを決めて毎月実施している。	○	職員の希望が少なく、全職員が参加できていないため、事業所としての研修方針を明確にするとともに、職員の経験や目標に合わせた年間研修計画を策定し、組織としての参加体制づくりに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特定の同業者と交流、情報交換を積極的に行っている。	○	運営者、管理者だけでなく、一般職員の交流を進めたい。	県及び圏域協議会には加入していないが、研修等を通じて他事業所と交流しているほか、近隣の高齢者福祉施設職員と夏祭り等を通じて交流している。	○	管理者及び職員は、他事業所の見学や情報交換などの交流機会を望んでおり、サービス内容や職員のケア、対応を客観的に判断する基準とするため、効果的な交流機会の確保について検討してほしい。
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	少グループで意見交換しながら、それぞれの立場を理解出来る様努めている。	○	個々の意見、主張が全体として受け入れられるよう調整して行きたいと思う。			
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	担当している入居者の状態や、緊急出勤の状況をみながら職員を評価している。	○	職員の努力や頑張り、実績を評価して、さらに意欲を持って働けるよう努めたい。			
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>								
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の事前面談で、可能な限り不安解消に努めている。	○	入居後も環境の変化等に配慮しながら、本人と話しをする機会を多く持ち不安を軽減するように対応している。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用開始するまで、家族との面談や電話での話しを聞く機会を設け家族の気持ちを受け止める努力をしている。	○	家族が安心して入居へ向けられるよう、面談や相談を随時受け付け、対応している。			
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受け付け時に必要な支援について、サービス利用の見極めを行っている。	○	必要としているサービスの見極めをしていく。			
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居前にホーム見学に来ていただいたり、職員と対話するなどして、本人・家族共に納得された上でサービスを開始している。	○	入居前にホーム見学に来ていただいたり、職員と対話するなどして、本人・家族共に納得された上でサービスを開始している。	管理者が事前に面談して情報収集し、利用者及び家族の事前見学を受け入れ、事業所の雰囲気を体感したり、職員との関係づくりなどに配慮しながらスムーズな利用に移行している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	場合によっては場所を変え、職員・利用者の関係にこだわらず、喜怒哀楽を共にし支え、支えあっている。	○	利用者さんを、人生の先輩として見る事を忘れず、学び・支えあうようにしている。	事業所独自のアセスメント様式（バックグラウンドアセスメント）を活用して利用者の個人史を把握し、日常生活のケアに活用している。 また、職員は利用者の自立心の助長をめざしており、調理の味付けや食材の知識など利用者の能力を引き出しながら共に作業するなど、信頼し協力し合う関係づくりに努めている。		
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からの相談には随時応じ、利用者さんを共に支えて行く関係を取っている。	○	入居により家族との関係が薄れないよう、入居後も家族の協力をお願いしている。いつでも家族からの相談を受け付け、対応している。			
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者個々の家族との関係の理解に努め、入居により関係が大きく変化しないように努めている。	○	職員で対応出来る面と、家族でなければ対応出来ない面を見極め、家族にも協力をお願いしている。			
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人との関係が途切れないよう、出来る範囲で支援に努めている。	○	いき付けの美容院や病院、店へ行けるよう努めている。			
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立する方が居ないように対応している。	○	時には職員が間に入り、利用者が関りの中で支え合えるように努めている。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も、必要に応じ関係を断ち切らない付き合いをしている。	○	利用者さんからの相談は無いが、家族からの相談には応じている。				
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>									
<b>1. 一人ひとりの把握</b>									
	14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いや希望、意向を聞く機会を設けている。困難な場合は家族から意見を伺う等して対応している。	○	利用者の状態に応じ聞き取りをし、出来無い方については家族からの意見を取り入れている。	独自のアセスメント様式により利用者の考え方や特徴を把握し、日常会話の中で気持ちを汲み取るよう努めている。 また、担当職員が個別に把握したことも含め、利用者の情報をケースカンファレンスで共有し、職員全体でケアの標準化に努めている。		
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントの活用を努めている。	○	生活歴の把握について可能な限り家族に協力して頂いている。これまでのサービス利用について、担当ケアマネとの繋がりを大切にしている。				
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人個人の状態を把握し、無理の無い生活に努めている。	○	個人個人の状態を把握し、無理の無い生活に努めている。				
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>									
	15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアに対するアイデアを家族や関係者からも出して頂き、それを反映した介護計画を作成している。	○	家族からも都度、アイデアを出して頂いている。	独自のアセスメント様式や居室担当者の意見、面会時や手紙のやり取りから利用者及び家族の意向を確認し、職員間で意見交換しながら個別ケアに重点を置いた介護計画を作成している。 なお、事業所での対応が困難な場合は家族と対応について話し合い、様子を見ながら支援している。		
	16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間ごとの見直しと状態の変化に応じ、新たな計画を作成している。	○	期間ごとの見直しを行い、状態の変化で新たな計画を作成した時は本人・家族に事前に説明し対応している。	ケースカンファレンス時にモニタリングを行い、認定期間内に見直しているほか、居室担当者をはじめ職員の気づきや利用者の状態変化に応じて随時に見直している。	○	計画作成担当者は事業所独自の取り組みをめざして日々模索していることから、他事業所の取り組みを参考にしながら、効果的なモニタリングの実施や見直しの方法について検証してほしい。
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入とともに、記録が共有されるよう、記録に全職員のチェック欄を設けている。計画見直し時は可能な限り多くの職員の意見を取り入れている。	○	個別記録の記入とともに、記録が共有されるよう、記録に全職員のチェック欄を設けている。計画見直し時は可能な限り多くの職員の意見を取り入れている。				

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>								
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 <sup>の</sup> 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	可能な限り要望に応じられるよう、対応している。	○	可能な限り要望に応じられるよう、対応している。	通院への付き添いなど家族の要望に応じて柔軟に対応しており、地域内の高齢者福祉施設とは行事等を通じて連携している。 なお、法人として近隣市町村に新規介護事業所を開設予定であり、今後の職員間の連携が期待される。	○	事業所の機能を地域に還元したいと模索しているため、例えば地域の福祉相談窓口の設置やネットワークの整備など、地域事情に応じた柔軟な対応を検討してほしい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>								
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性に応じて地域資源を活用しながら支援している。	○	多方面へのボランティアの協力も今後、必要としたい。			
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて地域のケアマネジャーとの話し合いの場を設け、アドバイスを受けている。	○	今後は状態に応じ他のサービス利用も考えられるため、ケアマネジャーとの関わりを深めていきたい。			
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じ相談しアドバイスを受けている。	○	本人の意向や必要性におうじて、今後も地域包括支援センターと協働していきたい。			
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医やかかりつけ薬局、本人・家族の希望するを利用するよう支援している。	○	かかりつけを持つ事により当初より良い関係を築き適切な医療を受ける事が出来ていると感じている。	協力医が主にかかりつけ医のため、受診や相談等のほか、緊急時の救急搬送など連携体制を整えており、協力医の薬剤師や看護師への相談体制もある。	○	地域的に医療機関が少ない事情があるため、看護師との連携などによる緊急時の体制強化・確保に努めてほしい。
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の受診を受けられるよう支援している。	○	専門医の治療の下で受診時は利用者もDrに相談する等、内服についても抵抗無くスムーズにされている。			
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院の看護師に相談しながら、健康管理や医療活用の支援をしている。	○	予防接種や健康診断、各種検査等、相談しながら行っている。			
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は病院関係者に速やかに情報提供をし、利用者が不安なく治療を受け、早期退院出来るように努めている。	○	入院中も病院関係者との情報交換をこまめに行い、退院に向けた支援に努めている。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期のあり方について、日頃から家族も心配されており、話し合いの場を設けるようにしている。	○	特養の申し込みは順次しているが、入所順番が回ってこないのが現状であり。多くの方が医療機関での治療を必要としている。	○	以前に重症心疾患の利用者を受け入れた事例もあり、家族の同意を得たうえで、できる限り事業所で看取る方針を職員間で確認しており、協力医との連携・協力体制も確保している。	○	ターミナルケアに関わるマニュアル作成や家族の同意書など、事務的な整備と受け入れ体制の強化に努めてほしい。 また、利用者の重度化に伴い職員が見極めの難しさを感じているため、看護師との連携や日常的な相談体制の確保に努めてほしい。
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者が苦痛無く、より良く暮らせるために事業所の出来る事、できない事を早期の段階で見極め、今後の変化に対応出来るようにしている。	○	かかりつけ医の協力の下、事業所では対応出来ない面は医療機関での対応をしている。また今後の変化に対する相談を家族、医師としている。				
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人に関わる全てのメンバーで話し合い、出来る限り住み替えによるダメージを防ぐ様に努めている。	○	入居の際は自宅で使われていた馴染みの家具や食器を持ち込んで頂き、家族にも可能な限り面会や電話の協力を頂き、環境の変化による不安を取り除く様に努めている。				
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>									
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>									
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>									
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや対応、記録において、誇りやプライバシーに注意を払い対応している。	○	言葉掛けや対応については十分に注意を払った対応をし、記録等についても誇りを損ねない書き方を取っている。		信頼関係の構築のもと、利用者的人生の先輩として敬い、自尊心を傷つけないよう配慮しながら、「おじいちゃん」「おばあちゃん」と家族のように親近感のある関係づくりに努めている。 また、個人情報使用同意書の整備やケースファイルの事務所保管のほか、職員にも利用者の状況確認など情報の取り扱いを徹底している。		
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	生活のあらゆる場面での自己決定のばを大切にし、利用者が理解しやすい話しかけをしている。	○	個々の能力に合わせた話しかけをする事により、自己決定する場を大切にしている。				
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の体調を考慮し、可能な限り希望に添えるように支援している。	○	1人1人のペースや希望を大切にしているが、体調を考慮して頂くような声掛けも併せて行っている。		食事時間のかかる方には他利用者よりも早めに食事を出し、皆と一緒に食べ終わるよう孤立感を与えない配慮をしたり、入浴日以外でも希望があれば時間や曜日を配慮するなど、利用者一人ひとりのペースを尊重しながら柔軟に支援している。		



外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>								
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容については本人が望む店で行えるよう支援している。	○	入居時に行きつけの理容・美容院を伺い、体調を考慮し出来る限り希望に沿えるよう努めている。			
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から片付けまで利用者と職員が一緒になり行っている。	○	体調を考慮すると、一部の利用者に限られるが毎日、準備から片付けまで利用者・職員で行っている。	季節の食材や畑で収穫した野菜を使い、利用者の咀嚼状況や好みに応じて、お粥やパン食など希望に合わせて準備しており、外食や出前などの食事を楽しむ機会も設けている。 また、調理師免許のある職員が献立を作成し、利用者が買い物から調理、準備、後片付けなど当番制でできることに関わっている。		
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲食物は日常的に楽しめるように支援しているが、タバコについては火事の危険性あり禁止している。	○	嗜好品については買い物支援等で今まで通り楽しめるようにしていきたい。			
	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	1人1人の排泄パターンをつかみ、トイレで気持ちよく排泄出来るよう支援している。	○	個人個人のパターンに応じたトイレ誘導を行い、プライバシーに配慮した支援をしている。			
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	男女別の入浴日は決めているが、体調や状況に応じていつでも入浴出来る様に支援している。	○	男女別の入浴日は決めているが、体調や状況に応じていつでも入浴出来る様に支援している。	基本的には週3回の入浴日であるが、利用者の希望する時間帯や曜日にも極力対応している。 また、安全な入浴介助を行うためシャワーチェアや滑り止めマットなどを活用し、安全で快適な入浴を支援している。		
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣や、その時々体調に合わせて休息や睡眠を取れるよう支援している。	○	高齢な利用者も多いため適宜、休息出来る様に声掛けや誘導をしている。			
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>								
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴、本人の好みや能力に応じて活動出来るように支援している。	○	農園作業や家事、歌や貼り絵等それぞれの生活歴や能力に応じ楽しめるように支援している。	ラジオ体操を皆で日課として行い、調理や農園作業のほか事業所周辺の草取り、洗濯物干し、ミニかまくらづくりなど、自発的にできることを行っている。 また、外食やドライブ、温泉に出かけリフレッシュしたり、切り絵や塗り絵などの趣味活動も楽しみながら取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人1人の能力や希望に応じて、お金を所持し使えるように支援している。	○	利用者の能力に合わせ支払い時にお金を渡し、支払って頂く等している。			
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	町内の散歩や農園・花壇作業等、体調や希望に応じて戸外に出掛けられるよう支援している。	○	事業所の中だけでなく、戸外での楽しみも危険なく支援出来るように努めたい。	天気の良い日はできる限り外出する機会を設けており、散歩や買い物など職員と共に日常的に出かけている。 豪雪地のため冬期間は外出機会が制限されるが、室内活動を中心に取り組み、必要に応じて一時帰宅の外泊もしている。		
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出（ドライブ）時は出来るだけ利用者の希望に沿えるような場所へ出掛けるようにしている。	○	家族との外出は一部の利用者に限られているところもあり、可能な限り家族の協力・理解を得て外出の機会を設けていきたい。			
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙のやり取りが出来る様、支援している。	○	希望時、電話や手紙のやり取りが出来る様支援している。			
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人、馴染みの方が気軽に訪問訪問出来るように努めている。	○	訪問時は利用者とはゆっくり過ごされるよう配慮し、訪問だけでなく電話等も随時受け付けている。			
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職員会議の中で、身体拘束をしないケアについて学ぶ機会を設けて、全職員で取り組んでいる。	○	今後も継続して全職員で知識を深めていきたい。			
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	全職員が鍵を掛けることの弊害を理解しており、夜間以外は鍵を掛けていない。	○	外出時は必ず職員が付き添い、鍵を掛けない工夫をしている。	正面玄関には鍵をかけず、センサーを設置しているほか、帰宅願望の強い方には共に外出したり、家族と電話で話して安心感を与えるなど配慮している。 また、高齢者虐待（拘束）について内部研修でも認識を深め、基準よりも職員を多く配置するなど対応している。 さらには、無断外出を想定した近隣や商店との見守り協力体制の確保や、近隣危険箇所の把握など安心・安全な生活環境づくりに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価		外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して、利用者が安全に過ごされるようプライバシーに配慮し、支援している。	○	日中は日勤者がリーダーとなり、所在確認・安全確認をおこなっている。			
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	無くすのではなく、危険を防ぐような対応をしている。	○	危険を防ぐ対応を取りながらも、事故や危険な事が起きないように常に配慮している。			
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	様々な事故防止に向けた話し合いを、普段の業務の中で持ち状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	○	経験の多い職員からのスーパービジョンや、意見の出し合いを活発におこなっている。			
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている						
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣住民や地域の人々へは常日頃から災害時等の避難協力をお願いしている。	○	近隣の方には避難訓練時に、一緒に参加して頂けるよう協力を求めて方が一に備えている。	年2回の避難訓練を実施しており、近隣住民や関係機関にも知らせて参加と協力を呼びかけている。 また、緊急時の避難場所の確認やマニュアルを整備しており、夜間を想定した訓練や救急救命講習の実施、非常食等の備蓄、スプリンクラー設置についても検討している。	○	近隣住民へ呼びかけているが、現実的には参加が難しい状況のため、運営推進会議や町内会等で検討しながら理解と協力を求め、地域と一体となった災害支援体制の構築に努めてほしい。
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者が、高齢でもある事から入居時に今後起こりえる事態についても説明し、おおよその対応について話合っている。	○	入居後に見られた変化については、家族との連絡を密に取り利用者、家族、事業所で対応を決めている。			
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタル測定に始まり、利用者の体調管理には注意を払っている。情報は速やかに共有し早期の対応に努めている。	○	協力病院には入院の設備が無い為、異変時には速やかに入院設備のある病院へ連絡し対応を仰いでいる。			
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬について理解すると共に、内服後の状態の変化についても細やかに記録に残している。	○	職員が薬について理解を深めやすいように、「薬ファイル」を作成している。症状の変化については細やかに記録に残し、全職員が目を通している。			
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を理解した上で、予防のために飲食物の工夫や運動を取り入れている。	○	同一姿勢で居る時間が長くないよう、体操を取り入れたり、飲食物の工夫をしている。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価		外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、1人1人の状態や能力に応じた口腔ケアを実施している。	○	うがいが出来ない方も居るため、緑茶での清拭等も検討していきたい。			
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるような状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人の状態を把握した上で、必要とされる量を提供しよう心がけている。	○	水分摂取が少ない方も居り、形状を変えた飲食物で対応し一定の水分量は確保したい。	専属の栄養士はいないが、調理師免許のある職員が中心となり献立を作成している。また、日常的に食事摂取量や水分補給量の把握、排泄・体重測定により利用者の体調管理に努めている。	○	利用者一人ひとりのカロリーや栄養バランスに偏りがないか、栄養士等の専門家から定期的に確認してもらう機会をつくり、体調管理の根拠を明確にしてほしい。
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防マニュアルの中で取り決めており、実行している。	○	定期的に感染症予防の勉強会を行っている。感染症が起らないよう、日頃から取り組んでいきたい。			
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理器具は毎食ごとに消毒を行い、清潔に保管している。食材も新鮮なものを購入し、生物には十分に配慮している。	○	今後も調理器具の消毒や保管、新鮮な食材での調理を徹底して行きたい。			
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>								
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	誰もが気兼ねなく出入り出来るように、建物の周囲には季節の花を植え、玄関先にはテーブルやイスを設置している。	○	季節の花で建物周囲を明るく彩り、玄関先の休憩スペースも広く周囲の方々に利用して頂ける様にしていきたい。			
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間での不快な臭いや音がないよう配慮している。ホーム内に居ても季節を感じられるように、花を飾ったり、季節ごとの装飾をしている。	○	共用空間ごとに1日数回の掃除や換気をおこなっている。ホーム内の装飾も利用者と協力しておこなっている。	ホールにはソファや畳のスペースがあり、利用者が自由にくつろげることができ、窓が大きく明るいため快適な生活空間が広がっている。また、廊下には切絵や塗り絵など利用者の作品や行事の写真を飾り、車イス対応の洗面所の整備や、前回調査で気になったトイレの臭いも改善されている。		
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前のポーチに設置したテーブルやホールのソファで過ごされている。	○	ホール以外にも、気の合う利用者を自分の居室へ招いている光景も良く見られるようになった。			
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人が使い慣れた家具等を持ち込んで頂いている。	○	外出時、好みの雑貨を購入されたり、入居後も家族の協力を得て使い慣れた物を持ち込んで頂いている。	居室には最小限の家具など持ち込み、絨毯（ジュカク）を敷いてくつろげるスペースをつくるなど工夫しており、必要に応じてテーブルの設置も予定している。また、職員が利用者の似顔絵を作成し、各居室前に目印として掲示するなど、個性ある居室環境づくりに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価		外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日に数回、ホーム内の換気を行い、温度調整は利用者に状態を聞きながら行っている。	○	日に数回、ホーム内の換気を行い、温度調整は利用者に状態を聞きながら行っている。			
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手すりを設置しており、利用者の目線で安全に生活出来るよう配慮している。	○	浴槽の高さがあり、入浴時は安全に配慮しシャワーチェアに座った状態から入浴して頂いている。			
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	1人1人の能力の応じて質問の仕方を変え、混乱や不安を招かないよう配慮している。	○	1人1人の能力の応じて質問の仕方を変え、混乱や不安を招かないよう配慮している。			
	87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りの空間を最大限利用して、活動している。	○	空いている土地を利用して農園・花壇作りを職員、利用者が共に協力し合い楽しんでいる。			

※   は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然の中で四季を感じながら、ホーム周辺の花壇に季節ごとの花を利用者とともに植え、育て楽しんでいる。農園も昨年、初めて挑戦したが、皆さんの力で大豊作となり今年も新たに農園規模を拡大している。戸外での作業を好まない方も居り、ホーム内でも楽しめるカラオケや貼り絵、塗り絵等にも力を入れている。利用者の誕生日には毎回、盛大な誕生会を開催し、皆さんで作った手作りのプレゼントを贈っている。食事では、そば打ちや、だまっこ鍋等皆さんとともに楽しみなが調理する事も多々あり。